

アマダイ通信NO. 96

(Tile fish network letter)

2013年紫陽花咲く

知人・友人各位

時の流れで、本通信のメール配信への切替えをお願い、3千名への郵送から、前号で千八百名の郵送へと切り替わる。「郵便局の革ちゃん」としては忸怩たるものがありますが、引き続きご協力をお願い致します。日本の政界の左翼が力を喪失、自民党のリベラルも旗頭を失い、保守一色になったのも、冷戦体制崩壊後の時の流れでしょうか？リベラル色の濃いヨーロッパとの対比が際立ちます。これも近代の時の流れの厚みの差でしょうか？

◎木漏れ陽で本を読みたくなる街

5月の連休明け、名古屋で一仕事、顧問先に名古屋名物山本屋の味噌煮込みうどんをご馳走になって、大阪に向かう。夕方顧問先で打合せ、一杯やって帰るが、大阪のアポが一件キャンセルになる。どう時間を有効に使うか？今回は連休前にオープンしたばかりの、大阪駅北口の貨物ヤードを再開発したグランフロントを、少し時間をかけて、歩いてみる。ここの外壁も●●が売り込み、顧問先の高橋カーテンウォールのプレキャストコンクリート(PC)カーテンウォールを使って頂く。

大阪駅ビルの三越伊勢丹や専門店街 lucua、ヨドバシカメラと、地下と地上でつながる商業施設は大変な賑わいだ。築山からはせせらぎが流れ、時に池になるかと思えば、滝に姿を変える。緑と水が豊か。緑陰で本を読みたくなり、築山の御影石のベンチに腰かけ、木漏れ陽でしばし本を読む。白神山地の麓の裏山に分け入り、木の切株に腰かけ、小川に素足を浸し、木漏れ陽で本を読み耽った、少年の日を思い出し、しばし感慨。

池やせせらぎの水景にふんだんに使う水は雨水や再生水を濾過し循環させて使っているようだが、循環する間に蒸発する。トイレや空調などの中水にも、飲用水以外に膨大な量の水を使う。大阪の地下水はアンモニア分が多く、水質が悪い。地下水を浄化して飲用水にするのはコストがかかるが、再生水や雨水では足りず、水道水をトイレの洗浄水や空調、水景等の中水に使っているのであれば、勿体ない。井戸を掘って汲み上げた地下水を膜濾過、低コストの中水として使用、水道料金を節減した上で、水道インフラを二重化、事業継続性を高めることが出来る。建築本体に続き、●●が営業を手伝う電源開発の、お客様の投資とリスクゼロの、井水利用専用水道システムでお役に立てると嬉しい。

◎「余命半年」のがん治療から解放される

3月下旬、高血圧治療で行きつけの三楽病院の生活習慣病外来へ。いつもはこの後外科に回り、主治医の阿川院長の診察を受け、血液検査をするが、今回からなし。術後10周年、ステージⅢb(ほとんど治癒する見込みなし)の大腸がんも完治ということで、ようやく医療行為から解放される。目出たし目出たしということで多少の感慨はあるが、がんを告知され「病気なんだ！」と認識が変わった時と同じで、自身に変化がある訳ではない。昨日の延長に今日があり、今日の延長に明日がある、そう思える。それが何よりだ。

だが多くのがん患者はそうはいかない。自覚症状もないのにがんを告知され、がん患者のレッテルを貼られると、「今日の延長の明日」を見失い、「がん患者」になってしまう。

「がん患者」製造の医療システムに乗せられ、苦しい治療に耐え、検査結果に一喜一憂、時には余命を宣告され、世の不幸を一身に背負ったかのように絶望、周りも巻き込んで、「闘病」に専心する。専心すればするほど免疫機能も低下、終にはがん細胞との心中行。

ここ数年、四半期に一度、白衣の阿川先生と狭い診察室で向き合い、「雑談」を続けて来たが、その機会がなくなったのが、なぜか寂しい。11周年の来年3月末には三楽病院に入院、人間ドックで精密検査をして頂き、それまでは四半期に一回の生活習慣病外来で、腫瘍マーカーのチェックを含め、血液検査を継続することに。夕方から事務所で東大三鷹寮生とコンパ、2年生が9人と3年生2人に院生1人。新入生受け入れで頑張る2年生の労を労う。寮生は毎年若返るが、いつまで今日の延長の明日が続くやら！

◎「がん患者」を拒否することから闘病は始っていた！・・読者とのメール

★いつも楽しい通信ありがとうございます。干場さんの行動力には感服いたします。私も、昨年11月に健康診断で膵臓の近くで大きく丸く肥大している物が見えると言われ本年2月に再検査をしました。近くのリンパ肥大にも見えるが膵臓腫瘍にも見えるということで、医師と相談の上、思い切って開腹手術をしました。膵臓腫瘍オペの予定で始まりましたが、膵臓には腫瘍は無く、リンパが22ミリ程に丸く肥大しており、膵臓に癒着しようとする触手があったとのこと。幸い膵臓に傷つけずにリンパのみ摘出することができました。

病院を4箇所紹介で廻り、CTペットでも癌の兆候は見られず安心していましたが、リンパの生検で、小さい扁平上皮癌が見つかりました。この癌は転移したものと思われませんが、検査を重ねてもどこにも癌は見つからず、原発不明癌と診断されました。

体調も良く、ゴルフも始め、お酒もすこぶるおいしいです。今後は、生きている証として仕事や私生活を存分に悔いの無いようにできればいいなと考えています。これも、天がダラダラと生きている私に対する喝と受け止めています。

★干場です。ご連絡、ご愛読、ありがとうございます。膵臓がんに至らず、何よりでした。人生わずか50年と言われた時代には、もう存命していない我々です。造物主（がいたとして）から与えられた命、粗末にははいけません、大事にし過ぎて、そのことだけを考えるようになったら、「病気に支配される」ということで、多分健康のためにも良くないし、残りの人生も楽しめないと思います。

ここまで生きて、家庭を創ったり、子孫を残したり、仕事や社会活動を通じて社会にも貢献してきたのであれば、勿論思い通りに行かなかった部分はあるので、悔いは残りますが、立派に社会的責任を果たしたとも言えます。自分のやりたいこと、やり残したことをやって残りの人生を楽しみ、多少は社会にも貢献して、その時が来たら、穏やかに旅立ちたいものです。苦しむのは嫌なので、最新のペイン治療の成果も利用しながら、変な延命治療はせず、静かに、旅立ちたいものです。

最近、有名な近藤先生が、治るがんはがんもどきだ！と仰っているようなので、「ほとんど治癒する見込みなし」の大腸がんステージⅢbで、がん保険金1千万円頂いたのに生き永らえている僕は、がんもどきで保険金を1千万円詐取した詐欺犯のようです。もっとも、

10年も経てばもう時効かも知れません。悪銭身につかずで、この10年間、通信の取材旅行と称して、毎年3回から4回、時に5回も海外ツアーに行っては全部使ってしまいました。又、お会いできるのを楽しみにしています。

◎「色男」カラーステテコを減損処理

40歳でサラリーマンを始めスーツ着用開始。ステテコをはくのが嫌で、スラックスの下はパンツ一枚でしたが、夏には汗をかいてスラックスが汗を吸い、色が変わる。そこで数年前から、スラックスの下はステテコ一枚だけにする。これだとスラックスは余り汗を吸わない。ステテコというよりはロングパンツですが、「色男」は真っ白のステテコは嫌で、色ステテコを探すが、余り見かけない。デパートにはあるが、一枚3千円ほどと高い。

デパートのバーゲンでブランド物のカラーステテコを探しては1980円くらいで、ベージュのスーツにはベージュのステテコ、青のスーツには青、黒にはグレーと、色と柄の対応で、時にバーゲン漁りのオバハンと競い、山ほど衝動買い。下着だから誰かに見せる訳ではないが、色・柄をセットで揃えてしまうのが、「色男」の真骨頂。

希少価値のカラーステテコを、あろうことか、ユニクロが安値で大量販売。豊洲のららぽーとのユニクロで値札を見たら790円。苦勞して手に入れたイッセイミヤケやポロ、カルダンのステテコの山は二束三文に。評価損で減損処理。の少ない資産は更に減少。

カラーパンツが、「ファッション革命」でカラーステテコに切り替った時も大量に買い込み、陳腐化したカラーパンツの減損処理と在庫処分を迫られる。幸いホームレスの応援をする年越し派遣村の湯浅さん達の、特定非営利活動法人「自立生活サポートセンター・もやい」（電話03-3266-5744）に送って、ホームレスの皆さんに穿いて頂く。790円にまで減価したとは言え、今回は「捨てる」という訳にはいかない。

◎海女ちゃんを世界遺産に！

連休の土曜日の朝、勝どきのマンションのベランダに降り注ぐ初夏の陽光の向こうに、ベイブリッジやお台場の観覧車が見え、フジテレビの球形のスタジオが輝く。目の前のさざ波きらめく晴海埠頭に見慣れぬ客船。その名もSILVERSEA。薫風と光る海に誘われベランダで新聞を読んだ後、NHKの朝の連続ドラマ「あまちゃん」を観て、月島図書館へ。

東洋経済に「あまちゃん」で話題の海女の記事。縄文以来、2千年続くが、今は盛時の8分の1の2千人余り。日本の他に韓国に若干名。かつて九州の海女が小舟で出稼ぎ、能登まで北上、韓国にも出っ張る。アワビが一番の獲物で、乱獲にならないように漁期や装備に制限を設けるが、魚介類の餌の磯の海藻と魚介、海女の減少に歯止めがかからない。海底が石灰質の硬い藻で覆われる磯焼け等が原因とされるが、事態は悪化するばかり。

縄文以来続く海女文化を世界遺産に！という声が濟州島や日本で上がる。日韓共同申請で、草の根からの日韓親善を目指しては如何？翌朝、目が覚めたらいない筈のSILVERSEAがまだ晴海埠頭に。アラスカクルーズにも行く6階建の外国船だという。いつか乗ることがあるだろうか？海女に会いに濟州島へも行きたいものだ。

◎ザーサイとヤーコン

時々行く寿司屋で、たまに搾菜をつまみに出してくれる。中国産搾菜と違い、あっさり、

コリコリして美味しい。小さい頃食べた、キクイモの漬物に似ている。Wikipedia で調べ
るが、別物だ。ザーサイは高菜の仲間で、根ではなく膨らんだ茎の基部を食べる。他の茎
や葉っぱはどうしているのか？高菜の仲間なので、漬物になっているのか？

搾菜は重慶名物で、30年代からの歴史の短い食品だ。塩漬けたあと塩出しし、胡麻油
と辛子で味付けする。🍄がさっぱり味の菊芋と間違えた和風ザーサイは胡麻油と辛子の味
付けが、中国産と違う。菊芋は北米原産、南米原産の仲間をヤーコンという。田舎の家の
前の道路の盛土の斜面に自生、根を味噌漬けや粕漬けにすると、コリコリと歯触りがよく、
美味しかった白神の菊芋は同じ外来種なのか？

菊芋やヤーコンにはイヌリンが植物の中で一番含まれ、ゴボウなどより多い。イヌリン
の天然オリゴ糖は人間が持つ酵素では消化吸収が不可能で、ブドウ糖の生成が抑制され肝
臓への負担が軽い。インシュリンの分泌量を低下させる働きもあり、膵臓の負担も軽減、
これらの相乗効果で血糖値の上昇を抑え、糖尿病に効果がある。ホルモンの一種のインシ
ュリンが増えると脂肪が蓄えられ、代謝しにくくなり、太り易くなる性質があり、イヌリ
ンにはダイエット効果もある。ヤーコンを緑の地球ネットワークの仲間が西伊豆で栽培す
る。72キロの体重を学生時代の61キロに戻すことは可能だろうか？

植樹 20 周年黄土高原紀行 (2012. 8. 19~25) (2)

③南天門自然植物園・・・太陽と水と緑の好循環

二日目の朝は眩しくて太陽の輪郭が見えない。建設の鋤音の他に汽車の汽笛が頻繁に聞
こえる。北京と違いこちらは標高が千 m 以上あり、爽やかだ。黄土高原の朝が明け、薄靄
の中をまあーく橙がかかったお陽様が昇っていく。石炭と発電の街大同市(大阪と京都と兵
庫を加えたくらいの広さ)の南の外れ、霊丘県の県城のホテル(明珠国際商務酒店)。鶏では
なく犬が鳴き、グイーンとコンクリートでも切断する音やキーンという金切り音が聞こえ、
六階建てのクリーム色の外壁と赤い屋根に太陽熱温水器を乗せた巨大なマンション群がホ
テルを囲む。建築中の建物の屋上には現地時間(日本と時差1時間)6時というのに働く人
の姿。中々の働き者。マンション群の向こうに10基近くのタワークレーンが20階建て
くらいのビルをそれぞれ抱き抱えているのが、薄靄に霞んで見える。

2日目は、南天門自然植物園へ。バスの中で大同事務所の魏学生副所長が挨拶。緑の地
球ネットワーク事務局長の高見さん(東大三鷹寮同期)は、緑化活動だけでなく、貧しく、
水不足に悩む農民の為に井戸を掘ったり、学校に果樹園を作って子供達の教育費等を生み
出したり、貧困救済にも貢献してくれました。大同は炭鉱地帯で日中戦争が始まった時に、
真っ先に激しい戦闘が行われた地域で、反日感情が激しかったのですが、高見さんの活動
が広く知られるようになって、日本の印象は変わりました。魏副所長も17年間高見さんと
一緒に仕事をして、とても尊敬していると、感動の発言。太行山脈が川によって削られた
断崖絶壁の、絶景を縫ってバスは進む。砂漠化した黄土高原が緑豊かだった時代に、今は
小川でしかない川が、かつては時に奔流となって、激しく岩肌を削って来たのだ。

幹線を外れ、山道を少し走ると、舗装が途切れ道幅も狭くなり、バスを降りて30分位
歩く。道中色あざやかな沢山の高山植物に目を奪われる。トウモロコシ畑が尽きる所から
広大な南天門自然植物園が広がる。十年以上前、初めてここを訪れた時は木もまばらで、

山頂近くは石ころだらけだった。生活が厳しすぎ、住んでいた人々が集落を放棄、麓の村に移り住む。そこをひと山丸ごと植物園として借りた。年間5百ミリ近くの降水量があるので、耕作が放棄され、家畜の放牧もなくなると自然の森が出来る。山裾の小さな泉は大きな池となり、周りにあった細い白樺もその幹を太くしていた。はげ山にも松や柏、榎、樺など、土地に自生する木の苗を栽培して植え、どんな険しい山でも登って木の芽や皮、草の根まで食べて草木を枯らしてしまう山羊の放牧もなくなると、自然更新も含めて見事な緑の森が出来ている。森が出来れば落ち葉や枯れ草は腐養土となって水分と栄養分を蓄え、炭酸ガス、陽の光と協働、光合成で木を太らせ、葉から蒸散した水分は集まって雲となり、雨を降らせる。太陽と水と緑の好循環が始まる。ここまで20年。

緑で覆われた山頂までは辿り着けず、中腹から確認、眼下に広がる山や畑の雄大な景色にも魅了される。広大な大陸の、茶色勝ちのパノラマを見て、この優れた経験を生かすべきフィールドの広さも確認。辛うじて通じる電気で池の水を沸かし、カップラーメンのお昼を作業センターで頂く。下の畑で採れたトウモロコシを茹で、林檎やネギを丸かじりする野趣溢れる昼食。午後からは、子の手柏の苗を記念に植樹、無事の成長を願う。

④公安とも手を結び！？

3日目は広霊県へ。天空植物園を見学するという。高山植物を見学できると楽しみにする。広霊県の城区(市街地)を過ぎ、更に幹線を外れ、狭い田舎道を上る。田舎のどんな村にも舗装道路と電気を通せ！(通せないと廃村だ!)という政府の一声で、どの村にもコンクリートの道が出来たという。そんな路の傍らでしゃがみ、おしゃべりを楽しむ善男善女。皆長袖で厚着。土塀で囲まれた庭の奥に、六畳二間か三間の土壁に瓦屋根の家。屋根には竈兼暖房のオンドルの煙突。帽子を被ったお爺さんが土埃を浴び、野菜を積んだリヤカーをロバに引かせる懐かしい光景。経済を高度成長させ、目まぐるしく変わる中国で、変わらないものがある！そんな昔ながらの家の庭にも黄色く塗られたダンプカーが鎮座し驚く。

道の舗装も途切れ、土埃を上げて走るバスが止まる。乗用車は大丈夫だが、ロングボディアのバスは川を渡れない。水の無い川に行く手を阻まれる。砂漠の枯れ川ワジと同じ、普段はただの大きな溝だが、一度雨が降ると奔流となって橋も流すが、架け替えられない。地球大のトイレで用を足した後、バスは引き返す。一段と高い所に亜麻の畑。薄紫の花が風になびき綺麗だ。ヴィレッジ・シンガーズの「亜麻色の髪の乙女」(68年リリース)の歌の亜麻色とはこの畑の、薄紫の花と薄いベージュの茎の織り成す色かと一同感動。

広霊県に戻り昼食。昼というのにアルコール度50度前後の蒸留酒、白酒の陶器のビン。カウンターパートの総工会のみならず、林業局、更に公安(警察)の地元幹部まで揃い踏み歓迎会。かつて日本警察のお訊ね者だった●と高見君が、この地では権力の末席に列なり！？警察にも歓迎される。以前はお役人さんも一緒に昼から乾杯！と白酒グラスを交わしていたが、勤務中だからと飲まない。役人天国、賄賂天国も末端から変わる？

食後広霊県の幹部職員達も一緒に、営林署長の先導で白羊谿で記念植樹。畑が消え、山道を上ると清流が現れる。小さい頃遊んだ、沢蟹や川海老、カジカやハゼの泳ぐ故郷の持ち山の沢を思い出す。大小の蛙、尻尾を振るオタマジャクシは見つけるが、唐揚げや天婦羅にして美味しい蟹や海老、ハゼやカジカ、まして桜鱒や岩魚、山女がいないのは残念だが、涼を求め川辺で戯れるカップルやバーベキューを楽しむ家族連れも。草木は豊富で、

ウメバチ草や日本では絶滅危惧種の松虫草、鳥兜などが目を楽しませる。広霊の県城に戻り、田舎のホテルのお湯の出ないシャワーで冷水を浴び、幹部連も一緒に白酒で乾杯。

⑤杏で村が豊かに

4日目の朝、前日までのホテルより、狭くて設備も悪い広霊県のホテルの窓から冷気が入る。大同の最高気温 24 度、最低気温 7 度。東京とは大違い。昔懐かしいダダダッという三輪車や自動車の音がうるさい。杏で村興しに成功した渾源县呉城村へ。先ず天空に浮かぶ楼閣懸空寺へ。途中、極楽寺という大きな寺の落慶法要に出くわす。門前は大賑わい。屋台も出て道の両脇にもびっしり駐車。暫く行くと前方の道が公安の車で塞がれ、身動きがつかない。路上駐車を止めさせようとした公安が誘導に失敗、片側一車線の両側の道を反対方向の車が占拠し、身動きつかなくなった。よくあることらしい。埒が開かない、帰れなくなるといけないと、見送りの総工会の車はさっさと引き返す。一ヶ所で渋滞が始まると、訳のわからない後の車が追い越そうと前に出て反対車線も塞ぎ、があちこちで起き、大渋滞。水や食物を売る屋台も出て、片がつくの何日もかかり、終わった後の側溝は排泄物の山ということがよくあるという。今回は半時間ほどでどうにか片がつく。

懸空寺は三度目。汚れたチップトイレは無料のきれいな水洗に改造され、参道にずらっと並んでいた怪しい物売りもいず、すっきり。大同に都があった北魏の末期(6世紀初頭)の創建で、谷底から 26m 上の絶壁に穴を穿ち、梁を差し込んだ土台の上に 40 余りの楼閣が天空に浮かぶように築かれ、楼閣間の移動には宙吊りの栈道を渡る。スリル満点。高所恐怖症の●は三度も登ったことを深く反省。仏教、道教、儒教が共存する最高所の三教殿で、四度目は決して登らないことを、居並ぶ釈迦、老子、孔子の像に固く誓う。入場料 130 元(1 元 12 円)は中国の所得レベルでは大分高いが、大人気。魅力はスリルか？ 功德か？

渾源县に入り浸食谷の亀裂が深くなると、呉城村だ。深さ 2 百 m の広い浸食谷の両側に杏畑が広がる。村の共産党書記が、村には日本の援助で植えた 2 5 万本の杏の木があり、種からは杏仁豆腐や漢方薬の原料になる杏仁を採り、殻は炭に、果肉は干して食用に、剪定した枝は薪になる。畑の時は 1 ヘクタール 200 元(1 元 12 円)にしかないが、杏だと 1000 から 2000 元の収入になる。春は枝の剪定、夏は防虫だけで済み、水も年間 400mm は降る雨で十分、水遣りも不要、街に出稼ぎにも行ける。生活が随分楽になった。もっと杏畑を増やしたい。高見さん初め日本の皆さんには大変感謝していますと挨拶。

三班に分かれ民家で昼食。盆と正月が一緒に来たようなご馳走で食べきれない。その分まだ「食べること」の生活に占める比重が大きいと感じるが、これまでと違い、食器だけでなくコップも人数分同じ物が揃う。精々小さなバイクとロバくらいだった乗り物が、三輪自動車だけでなく、黒塗りの乗用車を車庫に入れる家も。住まいは日乾レンガを積み重ね、土を塗った壁に、垂木に板を渡し、赤い瓦をのせた 6 畳 2 間か 3 間の造りで変わらないが、子供を大学にまで出す家庭が出るなど、様変わり。近隣の村もそれに倣う。(続く)

◎アベノミクス成功の鍵・・東大三鷹クラブ 第 109 回定例懇談会のご案内

アベノミクス絡みで経産省の人間が読んでいると、友人の自民党議員の秘書に「経済成長は不可能なのか・・少子化と財政難を克服する条件」(中公新書、盛山和夫著)を勧められる。著者は社会学者。なら、三鷹寮同期で東大文学部社会学科教授(現東大名誉教授、

関西学院大学教授、S41年入寮)の盛山君だ。倉吉東高から文科Ⅲ類入学、学生運動一直線の小生とは交わる所少なく、文学部社会学科に進学した。早速購入、講師をお願いする。

社会学科であれば、社会分析の必要上、経済学のレクチャーも受け、経済分析も出来る。視点が違えば、経済学者と見えてくるものも違う、面白い。アベノミクスに先駆け、大震災直後の一昨年6月、大震災からの日本経済の復活・再生を願っていち早く上梓された本書は、消費税増税に賛成、年金などの社会保障に投入すべきと説く。憲法25条に規定する「健康で文化的な最低限度の生活」が生涯に亘って保障されてこそ、安心して国民はお金を使い、リスクを取りチャレンジすることも出来、経済も回ると。

大胆な金融政策、機動的財政政策、民間投資を喚起する成長政策の「3本の矢」をキャッチフレーズとするアベノミクスがスタート。金融緩和から円安が進み、円安による企業業績の改善期待から株価も上がり、失われた20年のトンネルの先に出口の明かりが仄見えた感じで、明るさも漂う。景気は気からとも言うが、真っ先に生活保護の削減を実行したアベノミクスと盛山理論の目指すところは、似て非なるようにも思える。

経済成長こそがアベノミクス成功の鍵であるが、日本経済を取り巻くデフレ、財政難、円高、少子化の四つの難問を如何にして解決し、経済を再び成長させることができるのか？日本経済再成長と日本再生を願う方は、まずは盛山君の説くところに耳を傾けて欲しい。

(文責 S41年入寮 干場 革治)

日時：平成25年7月5日(金) 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室(千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み)

定員：70名(先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません)

申込先：(有)ティエフネットワーク Email: tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

二次会：別途 近くの中国料理店SANKOUEENで、講師参加で行います。

◎出版記念会

5月の連休明けの9日、学士会館で三鷹クラブ平賀代表の80歳誕生祝兼出版記念会。51年(S26年)入寮、元労働省局長の平賀先輩が、80年の人生を振り返った500ページの大作「わたしの軌跡」を出版。67年入寮、朝日新聞OBの中村君が編集。折から開寮60年、三鷹クラブ結成20周年。55年入寮の大先輩から、12年入寮の現役生まで、爺ちゃんから孫くらいまでの60人が集い、理科I類2年生の小野寺桃子ちゃんが花束贈呈。こんな可愛い子が寮にいるの！と皆びっくり。かつて高歌放吟した寮歌、藝文と新墾(ニイハリ)を歌い、幕。会費7千円で15万円ほどの黒字。しばらく若者に寿司を差し入れ出来る。

◎味は文化です！留学生と日本の食文化を楽しむ会

🍷と一年先輩の辰さんがスポンサーで、駒形どぜう渋谷店で、留学生と一緒にエスニックドリンクの屋台を出した五月祭の慰労会。ドジョウ食は日本の文化。鯉のあらいもご馳走。淡水魚を生で食べるのは世界広しと言えど日本だけ！若い諸君が世界で活躍するためには相手のことを理解するのもさりながら、日本のことを理解しないのでは、相手から尊敬されない。アイコム(交換留学)生にも日本の食文化の一端を味わって日本理解を深めてもらい、国際交流を進めるために、留学生にも参加呼び掛け。参加者は

Ken Kohlhase、Franzi Edel、Marcel Klein (以上、独)、Haoshan Wu、Tingnaliu Liu (以上、中)、Amanda Clarissu (インドネシア)、Anna Dai (ニュージーランド)、Christine Lim (豪)、Claire Haemmerle (仏)、Seonghyeon Jeong (韓)、Viktor Skog (スウェーデン)、Joshua Lee (英)、稲川 秀征 (2012・理Ⅱ・刈谷)、今井 健太 (2012・理Ⅰ・刈谷)、小野寺 桃子 (2012・理Ⅰ・宮城第一)、松岡 絢香 (2012・理Ⅰ・高田)、江川 拓也 (2012・理Ⅰ・小倉)、藤波 誠洋 (2012・理Ⅰ・久留米大学附設)、山城 佑太 (2012・文Ⅰ・長崎西)、伊藤 大祥 (2013・理Ⅰ・西大和学園)、座光寺 琢 (2013・文Ⅰ・清風)、荷方 なつみ (2013・文Ⅲ・濟々鬘)、松本 福太郎 (2013・理Ⅰ・市立西宮)、野原 裕一郎 (2012・文Ⅱ・甲陽)

◎自分を曝す・・・珍しく「説教」

「留学生と日本の食文化を楽しむ会」はアイコム(交換留学)生 13 人とジャパニーズ 12 人で盛会。ジャパニーズもどぜう体験者はなく、皆さん喜んでくれる。交流しやすいように、自治会の野原委員長に事前に参加者名簿を送って貰うが、アイコム生は名前だけ。年末の歌舞伎町の無門でのクリスマス・忘年会、追出しコンパや新入生歓迎会、先日の交流会の参加者もいるのに、電話番号やメールアドレスも教えず、飲み会だけ参加するというのは気が知れない。留学生以外でも、電話番号、メールアドレスが空白の寮生がいて、失礼な話だ。

虎穴に入らずんば虎児を得ずという諺もある。この世の中でリスクゼロで何かが出来るとするのは稀。まして、顔見知りの寮生同士、寮の先輩の設けた宴席でご馳走になろうという時に、恐れるリスクとは何か？胸襟を開くという言葉がある。襟を開き、胸元のボタンを外し、ざっくばらんに、本音で交流、自分を曝してこそ、相手も本音で付き合う。

●の本音を言えば、宴席でも、連絡先を明かすことが出来ない寮生には帰って欲しい気分だと、冒頭から珍しく苦言を呈し、記入用紙を回す。

その余韻が残り？力が入ったか、翌日曜日のゴルフ。前半 53 叩き、後半 49 と善戦するも 3 戦連続の 100 台突破はならず。

◎ありがとうございました

★土曜日はどうもありがとうございました。ほとんどの留学生が初めてのドジョウでしたが、結構気に入ったようでした。いずれは自分たちで行って蒲焼きでも食べてみたいと思います。ところで、お話ししていた参加者の名簿ですが、だいぶデータが集まりました。更新し直したのを送っておきましたので、確認お願いします。それと、次のパーティが 6 月 30 日(日)に決まりました。今回のパーティは夏前ということもあり、夏祭りをコンセプトにして、食べ物や出し物もそれに合わせたものにしようと考えています。ご都合よろしければまたお越し下さい。(野原委員長)

★ふっくんと呼ばれている松本福太郎です。今日は本当にありがとうございました。とても楽しかったです。今はただの大学生で、お世話になることしかできませんが、いつか必ず恩返しをさせていただきます。

◎この夏の黄土高原ワーキングツアーお問い合わせは下記に(結びに代えて)

もう一つの china へは右をクリック。URL <http://homepage3.nifty.com/gentree/>